

平成30年度 学校評価結果報告

徳島県立川島高等学校

◆はじめに◆

本校では平成30年度当初に作成しました「学校評価計画」に基づき、教育活動を進めてまいりましたが、このたび、その評価結果をまとめましたのでご報告いたします。評価にあたりましては、1月に実施した「学校評価アンケート」などを通じ、多くの貴重なご意見・ご感想をお寄せいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果は3月にとりまとめ、全教職員で検討し、関係者評価委員会を経て、教育活動の課題などを明らかにし、平成31年度の学校運営、教育方針、重点課題の設定などに活用させていただいております。

今後とも、こうした学校評価結果を踏まえ、教育活動の充実・発展に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力くださいますようお願いいたします。

平成30年度

学校評価 総括評価表

徳島県立川島高等学校

平成30年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(1)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度度への課題と今後の改善方策
(1) 中高一貫教育の推進		評価指標	評価指標の達成度	総合評価			
<p>① 中高連携の促進に努め生徒の個性や能力を伸長するとともに、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>		<p>① ・中高一貫教育推進委員会を定期的に開催し、学校行事の内容を検討し、充実させる。 ・「中高一貫教育を活かした教育活動が行われている。」と思う教員・保護者の割合は、80%以上をめざす。 ・「学校生活に満足している」の割合は80%以上をめざす。</p> <p>② ・平成31年度教育課程を中高連携のもと、年2回以上検討する。大学入学共通テストに適応する教育課程を検討する。 ・中高相互の授業見学、中高合同の教科会を適宜開くことにより、生徒の実態を把握し、よりよい中高一貫教育のあり方等を検討する。</p>	<p>① ・中高一貫教育推進委員会は、議案を精選し年間5回実施した。 ・中高一貫教育を活かした教育活動が行われていると思う教員は、「ある程度思う」を含めて66.7%（前年比4.4ポイント減）であった。その比率は年々減少傾向にあり、二年前と比べると8.9ポイント減っている。保護者は76%（前年比1ポイント増）であり、過去3年間の数値は横ばいである。 ・学校生活への満足度は79.5%で昨年より10ポイント増えている。</p> <p>② ・教育課程やクラス編成・講座編成について中高一貫教育推進委員会で来年度に向けての課題を話し合った。 ・年3回の中高相互の授業見学、年3回の教科会を開催し、意見交換を活発に行った。またSA（スペシャルアプローチ）を通じて、教員間の交流も行った。</p>	<p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>〈所見〉 本年度第8期生の卒業前に行った中高一貫教育アンケートの結果から、川島高校での学校生活、学習内容、進路指導、学校行事に対して80%以上の生徒が満足していると答えており、一定の満足度と理解を得られた。</p>		<p>○ 学校生活、学習内容、進路指導、学校行事への卒業前の生徒の満足度が80%以上を超えており、高く評価できる。</p> <p>○ 中高相互の授業見学や数学の先取り学習を、子どもの実情に合わせ弾力的に運用されていることも素晴らしい。</p> <p>○ 新しい教育の流れに対応し、より充実した教育を期待する。</p> <p>○ 中高一貫教育を生かした教育活動は、中高一貫教育校として最も腐心しなければならぬ最重要課題と捉えるべきである。</p> <p>○ 中高一貫教育を生かした教育活動を今以上に充実させ、中入生と高入生の意識の統一を図ってほしい。</p> <p>○ 中高一貫の特色を十分発揮できるような教育にしていきたい。</p> <p>○ 達成度の数値が下がった場合や、マンネリ感がある場合には、高校生が実感できる中高一貫教育の「特色ある教育」について、検討を行う必要があると思う。</p>	<p>○ 中高一貫教育校として14年が過ぎ、概ね良好な中高一貫教育ができていると考えている。しかし、取り組み自体がマンネリ化している感は否めず、これまでの教育活動に関する検証結果を十分に検討し、学習指導・進路指導・特別活動等の各領域で更なる充実をめざし、中高一貫教育の推進を図りたい。</p> <p>○ 中高生徒の交流ニーズの把握や技術力向上方法を中高相互の授業見学や研究授業、また、中高合同の教科会の内容を充実させ授業の改善に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>○ 数学の先取り学習を継続することにより、そのメリットを受ける理系への進学者を増やす。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① ・6年次対象の「6年間の学校生活」のアンケート結果を踏まえ、中高連携の学校行事をより充実させる。 ・7月の中高一貫教育説明会、10月の県立川島中学校2年生対象説明会での発表内容を十分検討する。</p> <p>② ・平成31年度教育課程を教育課程委員会及び中高一貫教育推進委員会で検討し、編成する。 ・中高相互の授業見学、研究授業に対する合同協議や中高合同の教科会において、授業方法等について検証し、授業の工夫改善を図る。 ・今年度実施の授業展開やクラス編成の検証をする。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ・平成29年の1月に6年次生を対象とした中高一貫教育アンケート結果を参考に、中高一貫教育推進委員会で中高の学習指導、進路指導や生徒間の交流について協議した。また、本年度は、例年実施していた10月の県立川島中学校2年生対象説明会を取り止め、参観授業として「先輩に学ぶ」と題して5年生から高校生活の話を開いたり、質問に答えたりといった形での取り組みを試みた。</p> <p>② ・平成31年度教育課程については、4月に教科会及び教育課程検討委員会、5月に中高一貫教育推進委員会を開催して検討し、生徒のニーズにあった教育課程に変更した。 ・中高相互の授業見学を3回実施した。また各教科間で計画を立て、中高教員交換による授業を実施した。 ・定員の発表を受け、平成31年度入学生のクラス編成について、中高一貫教育推進委員会などで検討した。</p>	<p>県立川島中学3年次生全員が参加する8月の中学生体験入学や、中学3年次生対象でそれぞれ開催した高校説明会において、川島高校進学の魅力や利点について保護者も交えて理解を深める機会を設けた。体験入学では高校生が中学生に学習を教える機会を与え、お互いに交流しながら学び合うアクティブラーニングの成果がでた。中高接続のための数学の先取り学習を継続した。</p>			

平成30年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(2)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	<p>① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。</p> <p>② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。</p> <p>③ アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の研究を推進する。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○授業に対する生徒の満足度が85%を超えており、アクティブ・ラーニングに取り組んだり、三者面談や個人面談を熱心に行われている成果だと評価できる。三年間継続してやってきた主体的・対話的で深い学びを取り入れた課題テストなど継続的・積極的取り組みを期待する。</p> <p>○「朝の学習の時間」によって一日を落ち着いてスタートすることは大切である。</p> <p>○基礎力向上にしっかり努めてほしい。</p> <p>○三者面談や個人面談を丁寧に実施していることは適切な学習のサポート体制として高く評価する。</p> <p>○今後の大学入試改革に対応するため、英検・漢検などの資格取得に力を入れてほしい。</p> <p>○保護者との連携を図り、学校と家庭が一体となって生徒が頑張れるよう、導いてほしい。</p> <p>○検定試験等の具体的な目標達成に向けた取り組みが学力向上の成果につながる。</p> <p>○文章作成、プレゼン能力を高めるためには、読書が大切と思うので図書貸し出し冊数の減少が気になる。</p>	<p>○学力向上や実践的な学力の育成には、主体的な学習者の養成が急務となる。そのために自己分析を行うつつ、目標に向けて努力する意識と習慣作りが大切である。面談を大切に、具体的な課題を与える必要がある。まずは机に向かったり本を読む習慣を身につけることから始めることが大切である。</p> <p>○「朝の学習の時間」は、4・5年次生は英語検定、漢字検定という具体的な目標に向かって学習を進める時間として、また、一日の学習を落ち着いてスタートさせるという目的で行われている。その効果を肯定する教員が80.5%（前年比1.5ポイント増）になった。3年連続で50%を上回り、一定の評価を得られている。幅広い学力層を持つ本校に適した取り組みだといえる。</p> <p>○3年間継続実践してきた主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善、課題テスト等に取り入れた思考力を問う問題作成を次年度以降も継続し積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>○読書については、調べ学習や進路に関する図書の利用などを通して、さらに推進する必要がある。</p>
		<p>① 三者面談や個人面談に対する生徒の満足度75%以上をめざす。</p> <p>・手帳(スラノット)を活用することにより、家庭での平日学習時間平均を10分伸ばす。</p> <p>・漢字検定、英語検定準2級以上の合格者数は、合わせて50人以上をめざす。</p> <p>・「朝の学習により、学習の習慣が身についた。」と思う生徒の割合は、50%以上をめざす。</p> <p>・読書の推進に努め、年間入館者数13,000人以上を目指す。</p> <p>・基礎学力向上をめざして、校内課題テストの基礎分野50点で学年平均25点以上をめざす。</p> <p>② 生徒の授業に対する満足度は、75%以上をめざす。</p>	<p>① 三者面談や個人面談に対する生徒の満足度は85.3%(前年比5ポイント増)であった。</p> <p>・朝の学習に毎日取り組むことは効果があると感じた生徒は40.6%(前年比6.6ポイント減)であった。</p> <p>・平日の家庭学習時間は4年次生は1時間29分、5年次生は1時間32分、6年次生は1時間48分(前年比4年次生7分増、5年次生15分増、6年次生1分減)であった。</p> <p>・漢字検定の準2級以上の合格者は9人、英語検定の準2級以上の合格者は15人(2/6時点)であった。</p> <p>・年間入館者数は7,827人(1月末現在)で、目標を大きく下回った。図書貸出冊数も1,414冊(1月末)で、前年より744冊減となった。</p> <p>・課題テスト基礎分野の平均点は25点に近づいた。(4年27.7点,5年23.9点,6年24.3点)</p> <p>② 授業に対する生徒の満足度は85.3%(前年比5.1ポイント増)であった。</p> <p>・習熟度別学習や少人数学習に対する生徒の満足度は65.0%(前年比3.8減)であった。</p>	<p>〈評定〉</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>三者面談や個人面談を予定どおり実施できた。肯定的意見が生徒85.3%、保護者81.8%となった。おむね生徒保護者ともに面談等のサポート体制には満足できているようである。</p> <p>生徒の授業に対する満足度は目標の75%以上を達成できており、昨年比5.1ポイント増であった。今年導入の電子黒板を活用し、より一層の指導力の向上と、授業の改善に努めたい。</p> <p>習熟度別学習や少人数学習に対する満足度は同程度のポイントであった。より効果的に実施ができるように努めたい。</p> <p>図書館利用者数、貸出冊数ともに昨年より減少した。読書離れに歯止めをかけるための改善と努力を続けたい。</p>			
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>① 生徒との常時面談を心がける。</p> <p>・朝の学習の時間を毎日10分間設定し、本校独自の「朝の学習ノート」で自学自習を行わせる。4・5年生は漢字検定及び英語検定合格を目標とした学習を行う。6年生は各自の進路目標を達成のための学習を行う。</p> <p>・毎週月曜の朝、手帳(スラノット)に週の計画を立てさせる。また、可能な範囲で授業でも活用する。</p> <p>・宿題・週末課題の提出を義務づける。</p> <p>・家庭学習時間調査を毎月行う。</p> <p>・図書館だよりや展示内容の充実を図るとともに、各教科と連携して、授業における図書館利用の機会を増やし、読書への興味関心を喚起する。</p> <p>② 学力向上検討委員会と連携し、国・数・英・理・歴・公における学力・学習状況についての目標・方策を設定し、学習支援体制の改善に努める。</p>	<p>① 個人面談は4月と6月、及び10月の科目登録時を含め3回以上実施できた。また、保護者面談は5月のPTA総会、7月の三者面談、10月の年次PTAなどで実施できた。</p> <p>・朝の学習は全校集会など特別な場合を除き毎日実施できた。4・5年次生は、国語と英語を毎朝自学自習し、基礎学力の向上に向けて努力を重ねることができた。6年次生は生徒の進路希望に沿った内容をホームルーム単位で実施した。</p> <p>・朝の学習ノートは、毎日の生活記録、学習内容を担任がチェックした。</p> <p>・宿題・週末課題は、提出させて教科担任がチェックした。</p> <p>・家庭学習時間調査は、毎月実施し集計結果を職員会議等で報告した。</p> <p>・読書については、読書感想文におすすめの本、入試小論文によく出る本、本の福袋などの企画展示を行った。</p> <p>② 今年度の「学力向上実行プラン」は、「主体的・対話的で深い学びの視点から、学習・指導方法の改善に関する実践研究」の指定を受け、活発な学習活動が展開できた。</p>		

平成30年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(3)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現	① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、 進路達成意欲を高める。 ② 三者面談・年次PTAなどにより保護者 との連携強化に努める。	評価指標	評価指標の達成度	①・補習、校内課題テスト、模試等に積極的に取り組む生徒の割合は、75%以上をめざし、保護者の満足度は、80%以上をめざす。 ・進路意識を高める行事や講座に対する満足度は、生徒・保護者ともに75%以上をめざす。 <th data-bbox="1188 338 2025 850">評価指標の達成度</th> <td data-bbox="2025 280 2315 1761" rowspan="4">○ 補習、課題テスト、模試等に対し、教師・生徒・保護者が協力して取り組んだ結果が進路指導に対する保護者の満足度が82%という高い数値に表れている。各年次で特色ある取り組みをしていることが、学校への信頼に結びついている。今後マンネリ化することなく、より充実したものを期待する。 ○ 生徒の職業観は、大人の想像する以上に、きわめて稚拙で狭小である。各年次の意図的・計画的・系統的なレクチャーやガイダンスは、生徒の視野を広げ、就きたい職業やその実現に向けて取り組むべき過程や準備を考えさせる上で有効な機会を与えている。 ○ 評価指標の達成度については十分たっせいできている。学力の向上に保護者としても満足できていると捉えているのではないかと。そのため、保護者への対策として年次PTAでの進路講演会、大学視察の継続は大切になっている。</td> <td data-bbox="2315 280 2606 1761" rowspan="4">○ 補習等への取り組みや進路意識を高めるための行事等に積極的に取り組む生徒が6年連続して増えている一方で、進路指導や個別面談に対して保護者の満足度は評価指標の目標に達していない。早期からの生徒自身による自己分析や進路しらべ、基礎学力をつけるためのサポートを教科主導で積極的に進めたい。 ○ PTA総会や年次PTAの参加率を高め教育活動や進路指導等に対する保護者の理解促進を図るために生徒を通じて家庭との連携・連絡を密に取れるような工夫をしたい。 ○ 進路達成に関して、評価指標に成果主義的なものも取り入れてはどうかという意見があり検討を要する。ただし、最終進路状況の把握が3月末になることで評価は前年度のものになること、希望進路を高く持たせると満足度が高いことがよい評価にはならないことなどから現状では評価指標に盛り込むのは難しいのではないか。 ○ PTA大学視察では多くの保護者の参加のもと実施できた。次年度も継続実施したい。</td>	評価指標の達成度	○ 補習、課題テスト、模試等に対し、教師・生徒・保護者が協力して取り組んだ結果が進路指導に対する保護者の満足度が82%という高い数値に表れている。各年次で特色ある取り組みをしていることが、学校への信頼に結びついている。今後マンネリ化することなく、より充実したものを期待する。 ○ 生徒の職業観は、大人の想像する以上に、きわめて稚拙で狭小である。各年次の意図的・計画的・系統的なレクチャーやガイダンスは、生徒の視野を広げ、就きたい職業やその実現に向けて取り組むべき過程や準備を考えさせる上で有効な機会を与えている。 ○ 評価指標の達成度については十分たっせいできている。学力の向上に保護者としても満足できていると捉えているのではないかと。そのため、保護者への対策として年次PTAでの進路講演会、大学視察の継続は大切になっている。	○ 補習等への取り組みや進路意識を高めるための行事等に積極的に取り組む生徒が6年連続して増えている一方で、進路指導や個別面談に対して保護者の満足度は評価指標の目標に達していない。早期からの生徒自身による自己分析や進路しらべ、基礎学力をつけるためのサポートを教科主導で積極的に進めたい。 ○ PTA総会や年次PTAの参加率を高め教育活動や進路指導等に対する保護者の理解促進を図るために生徒を通じて家庭との連携・連絡を密に取れるような工夫をしたい。 ○ 進路達成に関して、評価指標に成果主義的なものも取り入れてはどうかという意見があり検討を要する。ただし、最終進路状況の把握が3月末になることで評価は前年度のものになること、希望進路を高く持たせると満足度が高いことがよい評価にはならないことなどから現状では評価指標に盛り込むのは難しいのではないか。 ○ PTA大学視察では多くの保護者の参加のもと実施できた。次年度も継続実施したい。
		活動計画	活動計画の実施状況		①・補習、課題テスト、模試等に対して積極的に取り組んでいる生徒は67.4%（前年比同ポイント）、保護者の満足度は85.9%（前年比2.3ポイント減）であった。 ・進路意識を高める行事や講座に対する満足度については、生徒は75.7%（前年比1.6ポイント減）、保護者は74.3%（前年比0.7ポイント増）であった。 ②・個別面談に対する保護者の満足度は81.8%（前年比2.7ポイント減）であった。 ・進路指導に関する保護者の満足度の各項目を平均すると81.7%でありおおむね好評であった。		
		①・進路達成のために補習、課題テスト、模試を計画的に実施するだけでなく、「朝学」「総合的な学習の時間」「土曜日補習」「サテライン授業」など様々な学習支援を行い、学力や小論文力養成を図る。 ・4年生に対し「職業人講演会」、5年生に対し「アカデミックレクチャー」、6年生に対し「進路ガイダンス」を実施する。 ・小論文講演会、進路講演会、進学座談会を各1回以上実施する。 ・6年生の就職生集会を年8回、5年生の就職・公務員説明会を年1回実施する。 ②・夏季休業中、冬季休業中、大学入試センター試験後などに、三者面談を実施する。 ・年次PTAを年2回（5・10月）実施し、保護者面談や保護者対象の進路講演会を実施する。 ・PTA大学視察を年1回実施する。	①・補習、課題テスト、模試を計画通り実施した。 ・「サタデーサポート（土曜日補習）」、「進研動画サービス」、「サマーチャレンジ（学習合宿）」の学習支援策を定着させた。 ・4年次生の「キャリアレクチャー」、5年次生の「アカデミックレクチャー」、6年次生の「進路ガイダンス」を予定通り実施した。 ・小論文模試を各年次ともに1回ずつ実施した。入試小論文指導は個別指導で行った。 ・小論文講演会を各年次ともに1回ずつ実施した。進路講演会は各年次1～3回実施した。進学座談会（卒業生を囲んで）も実施できた。 ・6年生の就職生集会を年8回、5年生の就職・公務員説明会を年1回実施し、公務員希望の生徒には校外模試を実施して実力の判定と進路指導に役立てた。 ②・夏季休業中は生徒全員を対象に、また三者面談は冬季休業中及び大学入試出願前などに随時実施し、保護者との連携強化に努めた。 ・PTA総会や年次PTAにおいてクラス懇談及び保護者面談を実施した。10月の年次PTAでは保護者対象の進路講演会も実施した。 ・PTA大学視察を計画通り、京都方面で実施した。				
				〈評定〉 A 〈所見〉 補習、課題テスト、模試等に対して積極的に取り組む生徒が昨年並みであった。 進路意識を高める行事や講座に対する満足度は例年通り75%を超えた。特にホワイトボードを用いて小論文講演会を実施したことは生徒と教員におおむね好評であった。 個別面談に対する保護者の満足度は81.8%、進路指導に対する保護者の満足度の平均は81.7%、おおむね好評で今後も工夫を続けたい。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	<p>① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的な生活習慣を身につけさせる。</p> <p>② あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○ 基本的な生活習慣、社会のルールやマナーの大切さの指導について生徒の92%、保護者の82%から支持されていることは素晴らしい。</p> <p>○ 授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、指導を継続することも大切。相談体制も活かし、健康・安全の意識を育成してほしい。</p> <p>○ 外部団体の協力を得て、交通安全教室を充実させたことは評価できる。</p> <p>○ 基本的な生活習慣の確立に向けては、全体指導はもとより、個々の課題を明確化した上での個別指導や地道で粘り強い支援も肝要である。</p> <p>○ SCの勤務日に合わせて生徒指導委員会を開催するなど情報の共有化を図り、いじめにつながる恐れのある事案については、急ぎ対応を協議することも一考したい。</p> <p>○ 生徒自らが考えて問題行動を防ぐ取り組みとともに、ルールを守る指導が必要。</p> <p>○ SNSの恐ろしさについてのアピール等、今後も行っていく必要がある。</p>	<p>○ 授業を受ける態度指導、身だしなみ指導、遅刻指導等について、正副担任や各年次団、生徒課の役割を明確にし、それぞれの連携を図り効果的な指導を継続して行う必要がある。</p> <p>○ 保護者との連携のもとで保健相談課を中心に関係する複数の教員が関わり、個別事案に応じた適切な支援を行う必要がある。そのためには、連携協力体制づくりが重要である。</p> <p>○ 健康と安全の意識の上で健康を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。中高連携シートを活用し、生徒個人の理解を深める努力をしていきたい。</p> <p>○ 交通安全に対する意識を高め、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底と自他の安全を守る意識の向上に努めることが重要である。</p>
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>9割近くの生徒は基本的な生活習慣、社会のルールの大切さを自覚し生活することができている。しかし、一部の生徒において自分勝手な行動が見られる場面もあった。</p> <p>服装・頭髪等の継続的指導を要する生徒はごく一部に限られ、9割強の生徒は身だしなみを心がけて生活できている。安定している。しかし、ネクタイ等の着こなし、女子のスカート丈や男子の柄物靴下などの小さな違反に対しては、継続しての指導が必要である。</p> <p>友達や先生等校内に悩み事を相談できる生徒の割合、及び迅速で丁寧な相談体制を評価する保護者指数は8割を超えた。今後も個に応じた組織的な取り組みを継続していきたい。</p> <p>適切な保健安全教育が行われ高い評価を受けている。9割以上の生徒は健康安全について高い意識を持つ一方で、自己の健康管理が不十分な生徒が見受けられる。</p>			
<p>① 全校集会、指導週間を月1回実施し、基本的な生活習慣の確立を中心とした生徒指導の徹底・充実に努める。</p> <p>・ 学校評価アンケートにおける、生徒の達成度は、80%以上をめざす。</p> <p>② 学校評価アンケートにおける、生徒指導に関する生徒・教職員の達成度は、80%以上をめざす。</p>	<p>① 年間で全校集会を7回、指導週間を11回実施した。</p> <p>・ 基本的な生活習慣、社会のルールやマナーの大切さを自覚させる指導に関する肯定的意見は、生徒は92.8%、保護者は82.4%、教職員は91.7%であった。始業チャイムを守る等前向きな態度で授業に取り組んでいることに関する肯定的意見は、生徒は93.5%、教職員は88.9%であった。子どもは校則やきまりを守り前向きな態度で学校生活を送っていることに関する保護者の肯定的意見は92.8%であった。服装・頭髪等高校生らしい身だしなみを心がけて生活しているか(適切な指導が行われているか)に関する肯定的意見は、生徒は94.5%、保護者は92.8%、教職員は86.1%であった。</p> <p>② 学校には悩み等を相談できる教員や友達がいるかに関する生徒の肯定的意見は83.9%であった。学校は、保護者からの連絡や相談に迅速かつ丁寧に対応することに関する保護者の肯定的意見は82.3%であった。教員の共通理解のもと適切できめ細やかな生徒指導に関する肯定的意見は、保護者は82.3%、教職員は80.6%であった。適切な保健・安全教育が行われ健康で安全な生活を心がけているかに関する肯定的意見は、生徒は91.7%、保護者は86.4%、教職員は97.2%であった。</p>	<p>○ 基本的な生活習慣、社会のルールやマナーの大切さの指導について生徒の92%、保護者の82%から支持されていることは素晴らしい。</p> <p>○ 授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、指導を継続することも大切。相談体制も活かし、健康・安全の意識を育成してほしい。</p> <p>○ 外部団体の協力を得て、交通安全教室を充実させたことは評価できる。</p> <p>○ 基本的な生活習慣の確立に向けては、全体指導はもとより、個々の課題を明確化した上での個別指導や地道で粘り強い支援も肝要である。</p> <p>○ SCの勤務日に合わせて生徒指導委員会を開催するなど情報の共有化を図り、いじめにつながる恐れのある事案については、急ぎ対応を協議することも一考したい。</p> <p>○ 生徒自らが考えて問題行動を防ぐ取り組みとともに、ルールを守る指導が必要。</p> <p>○ SNSの恐ろしさについてのアピール等、今後も行っていく必要がある。</p>	<p>○ 授業を受ける態度指導、身だしなみ指導、遅刻指導等について、正副担任や各年次団、生徒課の役割を明確にし、それぞれの連携を図り効果的な指導を継続して行う必要がある。</p> <p>○ 保護者との連携のもとで保健相談課を中心に関係する複数の教員が関わり、個別事案に応じた適切な支援を行う必要がある。そのためには、連携協力体制づくりが重要である。</p> <p>○ 健康と安全の意識の上で健康を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。中高連携シートを活用し、生徒個人の理解を深める努力をしていきたい。</p> <p>○ 交通安全に対する意識を高め、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底と自他の安全を守る意識の向上に努めることが重要である。</p>				
<p>① ホームルーム活動、年次集会、全校集会、指導週間等のあらゆる機会を活用し生徒の自覚を促し、指導の徹底を図る。また、登下校指導、校外巡視等を適宜実施し、生徒の実態把握とともに生徒の注意を喚起することによって事故や問題行動の未然防止を図る。</p> <p>② 授業態度、身だしなみや携帯電話に関する指導等について共通理解し、指導の徹底を図る。また、教職員間の情報交換を密にし、個々の生徒の指導について連携して取り組む。さらに、ホームルーム担任を中心に保護者との連絡を密にし、相談等に対応する。</p> <p>・ 長期休業中の校外巡視等、PTAや地域、青少年育成補導センター、警察署等の協力のもとで実施し、連携を深める。</p> <p>・ 交通安全教室、非行防止教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室(4年生対象)、健康教育講演会(4年生対象)を年1回以上実施する。</p> <p>・ カウンセリングの体制を充実させ、丁寧な支援を行う。</p>	<p>① 全校集会、年次集会、ホームルーム活動等を通して、生徒指導上の注意事項について生徒自身に考えさせ、事故や問題行動の未然防止を図った。また、毎月20日の「学校安全の日」にあわせて3日間の指導週間を設定し、登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導、校外巡視を実施した。生徒会役員と生活委員による朝の挨拶運動、交通委員による下校時の交通マナーアップの呼びかけ等、生徒による活動も積極的に実施した。</p> <p>② 「携帯電話校内使用禁止」の校則に基づいて、落ち着いた授業に取り組める環境づくりに努めた。また、放課後の使用や校外での使用についても自覚を促し、ルールやマナーを守り、よく考えて行動させることにより、携帯電話に関連するトラブルや犯罪の未然防止を図った。また、授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、継続的な指導を行った。</p> <p>・ 校外巡視等で関係機関との連携を深めることができた。</p> <p>◇警察、JAの協力のもと、プロのスタントマンを招いて交通安全教室を実施した(7/18)。</p> <p>◇例年の原付車安全運転講習会は該当者なしの為、本年度は実施せず。</p> <p>◇様々な非行と犯罪(加害・被害)の防止を目的として独立行政法人情報処理推進機構から講師を招いて非行防止教室「携帯・スマホ・インターネット安全教室」を実施した(12/20)。</p> <p>◇阿波吉野川警察署生活安全課スクールサポーターを講師に招き、4年生に対して、薬物乱用防止教室を実施した(5/7)。</p> <p>・ 4年生に対して緊急時に備えての心肺蘇生法講習会(12/11)や夏季休業中に生活習慣改善プロジェクトを全学年で実施した。</p> <p>・ 年に2回悩みごとアンケートを実施し、生徒の把握に努めると同時にスクールカウンセラーへの支援要請など早期対応を図った。</p>	<p>○ 基本的な生活習慣、社会のルールやマナーの大切さの指導について生徒の92%、保護者の82%から支持されていることは素晴らしい。</p> <p>○ 授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、指導を継続することも大切。相談体制も活かし、健康・安全の意識を育成してほしい。</p> <p>○ 外部団体の協力を得て、交通安全教室を充実させたことは評価できる。</p> <p>○ 基本的な生活習慣の確立に向けては、全体指導はもとより、個々の課題を明確化した上での個別指導や地道で粘り強い支援も肝要である。</p> <p>○ SCの勤務日に合わせて生徒指導委員会を開催するなど情報の共有化を図り、いじめにつながる恐れのある事案については、急ぎ対応を協議することも一考したい。</p> <p>○ 生徒自らが考えて問題行動を防ぐ取り組みとともに、ルールを守る指導が必要。</p> <p>○ SNSの恐ろしさについてのアピール等、今後も行っていく必要がある。</p>	<p>○ 授業を受ける態度指導、身だしなみ指導、遅刻指導等について、正副担任や各年次団、生徒課の役割を明確にし、それぞれの連携を図り効果的な指導を継続して行う必要がある。</p> <p>○ 保護者との連携のもとで保健相談課を中心に関係する複数の教員が関わり、個別事案に応じた適切な支援を行う必要がある。そのためには、連携協力体制づくりが重要である。</p> <p>○ 健康と安全の意識の上で健康を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。中高連携シートを活用し、生徒個人の理解を深める努力をしていきたい。</p> <p>○ 交通安全に対する意識を高め、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底と自他の安全を守る意識の向上に努めることが重要である。</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>(5)人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>① 人権教育指導計画の推進と、“あわ”人権学習ハンドブックを活用するとともに人権問題を解決できる生徒の育成に努める。</p> <p>② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①・「人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>②・「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合は、85%以上をめざす。</p> <p>・「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合は、85%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①・人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実していると思う生徒の割合は、「そう思う」(27.2%)と「ある程度そう思う」(53.4%)を合わせると80.6%(昨年比0.8ポイント増)となり、目標を達成することができた。</p> <p>②・人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしていると思う生徒の割合は、「そう思う」(29.9%)と「ある程度そう思う」(55.8%)を合わせると85.7%(昨年比4.4ポイント増)であり目標を達成することができた。</p> <p>・人権を大切にしている教育活動が行われていると思う保護者の割合は、「そう思う」(22.0%)と「ある程度そう思う」(62.2%)と合わせると84.2%(昨年比0.6ポイント減)となり、目標をほぼ達成することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>人権学習ホームルーム活動の中で“あわ”人権学習ハンドブックを活用し、多様なテーマを取り入れるよう配慮し、年次の状況に応じた内容の展開となった。</p>	<p>○人権委員会を核にして人権学習に全校を挙げて地道に取り組んでいる様子がよくわかる。特に毎月10日の「人権の日」を、中高が連携して同じ人権課題について共に学ぶ機会としていることを高く評価したい。</p> <p>○「夜回り先生」こと水谷修氏による講演会を実施し、多くの感動と気づきがあったことは素晴らしい実践である。</p> <p>○人権問題は生徒に興味・関心を持たずことが必要不可欠なことなので講演会等生徒の心を引き付けるものにしてほしい。</p> <p>○今も全国的に「いじめ」が大きな社会問題であるので、いじめをしない、許さないと、生徒が主体的に行動できるよう、保護者・教職員で支える活動を今後も継続できるよう期待している。</p> <p>○人権問題は生涯学習でもある。学校に限らず地域の人と共に学んでいくことも大切だ。</p>	<p>○人権学習ホームルーム活動の主題設定や内容について各年次の状況を考慮し、より一層精選する。</p> <p>○評価指標としている、生徒、保護者の意見において、「ある程度そう思う」から「そう思う」の割合が増加するような取組を目指していく。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動の展開や資料等について、生徒の状況に合わせたものを用いるなど、常に状況を把握し精選する。また、自己評価票の活用をさらに徹底し、反省点を生かせるよう努力する。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動に人権委員のより積極的な参加を促す。</p> <p>○「人権の日」の放送では、引き続き「個別的な視点」や身近な人権、最近の人権問題等について考え、様々なテーマとなるよう内容を工夫する。中学校への放送や中学生の放送担当も継続させ、道徳的内容にも適宜触れながら、中高連携を意識した内容を工夫する。また、人権委員が主体的に活動できるよう事前の指導をより一層工夫していく。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①・人権学習ホームルーム活動においては、各年次や各クラスの実態に応じた学習主題を設定し、できるだけ多くの「個別的な視点」や「普遍的な視点」を盛り込んだ授業を展開し、生徒が積極的に参加できる授業の改善に努める。</p> <p>・各年次で必ず「同和問題」についての学習を取り上げ、同和問題に対する生徒の意識の向上を図る。</p> <p>・徳島県人権教育推進方針に追記された「日本人拉致問題」「災害時における人権問題」、さらには「性の多様性」についても教材化に努め、積極的に取り入れる。</p> <p>・授業展開・資料に関して近年の新しい人権課題や他校の動向等も考慮し指導内容の改善に努める。</p> <p>②・支援学校との交流への積極的な参加を促し人権意識の高揚を図る。</p> <p>・人権新聞の編集に人権委員を積極的に活動させ、内容の充実を図り、年3回発行する。</p> <p>・講演会や「人権の日」の放送等については、中学校や保護者等に配慮して検討し充実させる。</p> <p>・校内外の様々な取組において人権委員がリーダーシップを発揮し活動が活性化するように指導する。</p> <p>・人権尊重の精神の涵養を図り、日頃の声かけ、呼びかけに努める。</p> <p>・道徳教育の観点からも生徒一人一人の「生きる力」の育成に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①・人権教育推進委員会で企画・立案した年間指導計画に沿って人権学習ホームルーム活動が展開できた。</p> <p>・主題設定には“あわ”人権学習ハンドブックを積極的に活用し、高校3年間を見据えできるだけ「個別的な視点」と「普遍的な視点」をバランスよく取り入れた。また、昨年度と同様に「個別的な視点」の中でも特に「同和問題」に重点を置き、各年次において必ず取り上げるように計画し実施した。</p> <p>・人権学習ホームルーム活動の生徒の「自己評価票」により、生徒の取り組みや感想が把握でき効果的に利用した。</p> <p>②・「人権新聞」を各学期毎3回発行し、生徒の感想文等内容の充実を図り、家庭への良き情報発信となった。</p> <p>・鴨島支援学校運動会や学校祭に参加し交流を深めることで、人権意識の高揚を図った。</p> <p>・「夜回り先生」の愛称で有名な水谷修先生をお迎えし、これまでに関わってきた子どもたちの話を中心に講演をしていた。私たちのすぐ近くにある「夜の世界」の恐ろしさや、夜眠らない若者だけでなく、夜眠れない若者にも手を差し伸べるようになった経緯、助けようとして助けられなかった若者たちの叫びなどを、終始圧倒されるような熱意を込めて話していただいた。「美しいものに触れるだけでその日一日心穏やかに過ごすことができる。毎朝空を見上げるなど美しいものを見つけよう。」といったたくさんのメッセージもいただいた講演会であった。</p> <p>・毎月10日の「人権の日」では年間を通じて各ホームルームの人権委員による「人権の日」の放送を行い、人権委員会活動の活性化に繋がった。取りあげるテーマについては、「道徳」に関する話題や「性的マイノリティ」「災害時における人権」等も取り上げ、生徒自身の人権意識や道徳に対する意識の向上に努めた。中学生にも放送を担当してもらい、中学校での人権学習の内容について紹介するなど、中高連携で同じ人権課題について共に学ぶ機会とした。学級において人権委員がリーダーシップを発揮する機会も増えてきた。</p>			

平成30年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(6)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標			評価指標の達成度		
				総合評価			
<p>(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実</p>	<p>① 学校行事，生徒会活動等を通じて生徒の自主性の育成に努める。</p> <p>② ホームルーム活動や部活動のより一層の充実と活性化を図る。</p>	<p>① 通学路の一斉清掃を学期に1回実施する。 ・川島中高祭，球技大会など，学校行事への生徒の満足度を80%以上にする。 ・「生徒の主体性を促し，集団の一員としてよりよい生活を築く」ため，適切な指導を行う。</p> <p>② 中央委員会を開催する。 ・部活動の入部率85%以上をめざす。 ・部活動委員会を年2回開催する。</p>	<p>① 通学路の清掃に関しては，年間を通して1度も実施できなかった。 ・川島中高祭など学校行事に対する生徒の満足度が，「そう思う」と「ある程度そう思う」をあわせて80.6%（保護者は88.1%）と昨年に比べて数字は生徒，保護者とも目標の80%を達成した。この結果に満足することなく生徒のアンケート調査に耳を傾け生徒会を中心に話し合い，より良い学校行事にしていきたい。 ・文化祭一般公開も4年目を迎え，充実した学校祭となっている。</p> <p>② 部活動の入部率は102%（男子95%，女子107%）と目標を達成できた。 ・部活動委員会を年2回開催し，部活動の活性化等について話し合うことができた。</p>	<p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>○文化祭も一般公開され，美術，書道，茶道，写真などを中心にレベルの高さを来場者に伝えていた。</p> <p>○部活動の入部率が高く，中高一貫の継続性の成果が表れている。生徒会活動においても，同じ学者ならではの蓄積と年齢差の大きい集団の思いやりの心を生かして充実させてほしい。</p> <p>○通学路の一斉清掃が年間を通して1度も実施出来なかった理由の追究と実施体制の見直しをすることが必要だ。予備日を設定するなどして年間活動計画に明確に位置付けて実施すべきである。</p> <p>○学校行事の充実，生徒による自主的な運営，生徒会活動，部活動への参加は年々充実している。</p>	<p>○生徒会役員会や各種委員会を開催し，ホームルームや部活動における満足度・不満足度などを検証し改善する。</p> <p>○生徒会活動がより積極的に行えるよう，各種委員会の開催や行事内容の精選を図る。また，アンケート調査を実施し，生徒の意見を積極的に取りあげるようにする。</p> <p>○生徒主体の活動が行えるよう特活課員と生徒会役員との連絡を密にし学校行事等の事前準備を十分に</p> <p>○特別活動を通じて普段から将来について考えていけるようサポートする。</p>	
				<p>活動計画</p> <p>① 生徒会や各種委員会が連携し，通学路や校内の清掃を行うなど積極的に美化活動に取り組む。</p> <p>・川島中高祭への積極的参加を促し，意識の高揚を図る。また，生徒会を中心に生徒が主体となって運営できるよう適切な指導を行う。</p> <p>② 部活動への積極的な参加を促す。また，部員同士で十分に話し合いをさせ，年間活動方針を明確にさせる。</p> <p>・部活動委員会を通して，部活動間で連携を深めるとともに，問題点を抽出し話し合う。</p>			<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 今年度は通学路の清掃や美化活動を積極的に取り組むことができなかった。</p> <p>・生徒会では役員を中心に，前日祭の計画や文化祭での企画，予餞会での思い出ビデオ制作，あいさつ運動など活発に行う事ができた。また，学校行事において，生徒会を中心に学校行事の内容を精選，変革する活動がより進んでいる。</p> <p>② 日頃の在校生の頑張り，新入生部員の積極的な入部につながった。高校1年生の入部率は，105%（兼部者を含む）と高いものとなった。部活動に多くの生徒が参加し，学校の活性化につなげることができた。</p> <p>・部活動委員会を通して，各部活動間で連携を深めると共に，問題点を話し合った。</p>

平成30年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(7)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>①「新学校版環境ISO」に取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」が生徒の85%もあり、地道な努力に敬意を表したい。</p> <p>○ゴミの分別・節電・節水の重要性について考えさせる機会を持たせることで、学校内だけでなく、家庭や社会での推進リーダーに育てていく視点が大切である。</p> <p>○目標指標を達成できており、環境教育や国際理解を身近なものと感じることができるよう生徒会等、生徒の皆さんが自主的・積極的に参加できるような活動を期待する。</p> <p>○国際理解教育を推進していくためには人的交流に多くを求めただけではなく、身近な人材や団体の掘り起こし、活用も検討すべきである。</p> <p>○啓発活動の強化、交流学习の実施をお願いしたい。</p>	<p>○日直によるEcoDiary(節電・節水・ゴミの分別の記録表)への記入を徹底させ、環境意識の高揚を図る。</p> <p>○生徒会や美化委員会で電灯の消し忘れ対策について検討する。</p> <p>○ゴミの分別を徹底するとともにゴミの減量化に向けて環境意識を高めさせるように指導する。</p> <p>○オーストラリアとの交流事業は今年度実施されなかったが、来年度は4月にオーストラリアの学生の訪問が予定されている。長年続いている事業なのでこれからも長く続くようさらに交流を深めていきたい。</p>
		<p>①・『新学校版環境ISO』に取り組み、清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>②・海外語学研修以外に国際交流を目的とした研修やプログラムの参加を促す。</p>	<p>①・清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合は79.9%(前年比0.2ポイント増)であり、評価指標達成まであと少しであった。</p> <p>・ゴミの分別・節電・節水等に努めていると思う生徒の割合は84.6%(前年比0.8ポイント増)であり、評価指標を達成することができた。</p> <p>②2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え徳島の魅力を発信できる人材の育成を目指した「ジュニア観光ガイド」養成講座に2名参加した。</p>	<p>〈評定〉 〔環境教育〕 B</p> <p>〔国際理解教育〕 B</p> <p>〈所見〉 『新学校版環境ISO』の認定を受けて7年目になり、生徒会・美化委員会を中心とした活動が定着してきた。本年度は全校的な取り組みとなるよう、4年次生全員が美化活動に参加できるようにし、環境美化・環境保全への意識向上につながられた。</p>			
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>ジュニア観光ガイドは2名の参加だったが、もともと9名の生徒の希望があった。また、夏休みや冬休みを利用し私費留学に行く生徒も多く、国際社会を意識し自ら視野を広げようとする生徒が増えてきていると感じる。</p>			
		<p>①・『新学校版環境ISO』告知板を掲示し、活動内容の広報に努める。</p> <p>・各クラスの日直に「節電・節水、ゴミ処理、環境美化への取組」をEcoDiaryに記録させ、意識の高揚を図る。</p> <p>・各クラスにゴミ箱3種類と「古紙回収箱」を設置し、ゴミ分別とゴミの減量化を呼びかける。</p> <p>・「レッツ・クリーン」環境美化活動を委員会・生徒会の活動にとどめず、4年次生全体を巻き込んだ活動に広げる。</p> <p>・美化委員と生徒会が協力して、『新学校版環境ISO』の告知板、節電・節水・ゴミ分別ポスターの掲示やラベルの張り替えを行う。</p> <p>②・校外の国際交流行事への参加を積極的に促し、参加に向けた適切な指導を行なう。</p>	<p>①・『新学校版環境ISO』告知版を設置し行動方針等諸活動の内容を紹介した。</p> <p>・電気や水道の使用量はグラフ掲示し、美化委員から節電・節水の協力を呼びかけた。</p> <p>・ゴミの分別や古紙回収を行い、ゴミの減量に全員で取り組んだ。</p> <p>・春に4年次生全体で通学路や駅、学校周辺の環境美化運動「レッツクリーン」を実施し、秋には、美化委員と生徒会を中心とした2回目の環境美化活動を実施した。</p> <p>・川島中高祭では、来校された方々にもゴミの分別やリサイクルの協力を促す分別ゴミ箱を美化委員で作成し、設置した。</p> <p>②・過去に海外語学研修に参加した生徒の現地での生活や体験談を知らせることにより、その魅力を伝え、興味を持ってもらえるように努め、参加を促した。</p> <p>・夏休みを利用した各種国際交流行事に参加した。また、10月には徳島県英語弁論大会に参加し、生徒自身の成長につながった。</p>				

平成30年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(8)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進	<p>① 地域貢献活動等の活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域の連携を深め、外部評価結果を生かす取組を促進する。</p> <p>② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め、地域防災を担う人材を育成する。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○ ホームページの充実を図ってほしい。</p> <p>○ 開かれた学校づくりの一環として、ホームページ更新回数県内一を目指してみては。</p> <p>○ ホームページの充実について学校行事の参加案内や休校など緊急性を要するものは、担当者のみ任せず、組織として動いてほしい。</p> <p>○ ホームページの充実(定期的な更新)が必要だが、先生方の負担にならないように工夫することも必要。</p> <p>○ 毎年のように台風や地震等の災害が発生し、南海トラフ地震の発生が危惧されている中、防災教育・訓練の充実を期待する。</p>	<p>○ ホームページについては、担当者が更新状況を確認し、個別に更新をお願いすることによって、評価指標の達成に努める。</p> <p>○ 防災クラブとしての校内活動をさらに広げたり、強化したりして、生徒全体に災害対応への関心をより一層高めてもらえるようにしたい。また教職員には災害時の役割意識を備えてもらえるように役割分担が明確に確認できる取組を実施したい。</p>
		<p>① ・ボランティア活動を通じて感動や喜び、達成感などを習得し、心豊かな生徒の育成をめざす。</p> <p>・「ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立っている」と思う割合は、生徒・保護者とも70%以上をめざす。</p> <p>② ・防災・減災の意識が向上したと実感できる生徒の割合を80%以上にする。</p>	<p>① ・地域の美化活動やイベントの運営協力を行うことにより、地域に貢献できる生徒の育成を推進できた。</p> <p>・ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立っていると思う割合は、生徒は51.1%(前年比0.8ポイント減)、保護者は75.0%(前年比9.9ポイント増)となり、生徒のみ評価指標を達成できなかった。</p> <p>② ・防災訓練・教育に関する満足度は9割を超え、防災訓練当日も、生徒たちの自主的で活発な活動の様子が見受けられ、生徒たちには自助・他助の精神のもとにした行動力の高まりを感じた。しかし、災害時に備えた教職員間の意識は低く、十分な役割認識が定着していないと感じる。</p>	〈総合評価〉			
		<p>活動計画</p> <p>① ・吉野川市「レッツ・クリーン」に参加し環境美化を推進する。</p> <p>・イベントに際しては積極的にボランティアとして参加させる。</p> <p>・ホームページ更新方法の講習会等を開き、掲載情報の拡充に重点を置き、最新情報の掲載や項目の追加を適時効果的に行う。</p> <p>② ・より実践的で生徒らが主体的にできる防災訓練・避難訓練を実施する。</p> <p>・地域の防災訓練への参加呼びかけを行う。</p> <p>・防災クラブによる積極的な防災活動を学校行事などを通して実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ・各種ボランティアに積極的に参加させることにより、地域との連携を深めることができた。</p> <p>・ホームページ更新方法の講習会を開くことはできなかったが、個別に教えることで対応した。また、メニュー項目の見直しを行ったり、学校行事の様子を実施後速やかに発信した。</p> <p>② ・防災訓練ではその内容を現実的で実践的なものに改善し実施した。</p> <p>・防災クラブの活動としては文化祭で非常食を用意し、来校者のみなさんに味わってもらい、被災時の状況を体験してもらった。また、昨年同様に岡山北6地区自主防災訓練に参加し、など、校内外の活動に積極的に取り組むことができた。</p>	〈所見〉			
		<p>ホームページについては、学校行事の様子を実施後速やかに発信できたが、生徒の興味が高い部活動の結果などがあまり更新できていない。そのため、生徒の肯定的な意見が評価指標に達しなかったと思われる。</p> <p>防災クラブの生徒だけでなく、全校生徒が様々な防災活動を通して、必要な知識や経験を積み重ね、防災・減災の意識の向上とそのためスキルアップが成されていると感じる。</p> <p>対して、教職員の意識や意欲については必要なレベルに達していないように見受けられる。</p>					